

新資料が語る広島壊滅のとき ~展示と講演会開催!~

2014.7.14 (レポーター 日高 愛)

世界に知られる広島。そこには忘れてはならない「原爆」という言葉があります。

昭和20年8月6日、被爆時の広島県知事は、高野源進という人でした。その年の6月に大阪府次長から着任したばかりだった高野知事は、当日は福山へ出張中で難をのがれましたが、原爆投下の報を聞くと、直ちに広島へ向かい、県防空本部を設置し救援活動の陣頭指揮に当たりました。

当館ではこの度、高野知事が原爆投下前後に書いた書簡を展示公開しました。また、講演会では、新たな資料の発見と合わせて、被爆当時の様子を更に深く考察しました。新資料が語る当時の広島の様子をご紹介します。

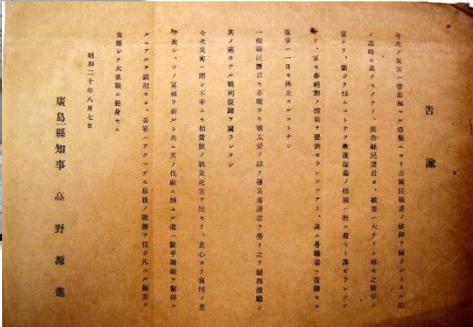
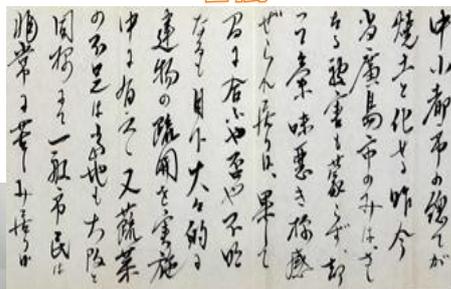
◆高野源進書簡◆

前任地の大阪府知事池田清氏に宛てた、原爆投下をはさむ前後4通の書簡



告諭

書簡



被爆前の空襲、建物疎開、町の様子や、被爆後の被害、知事の率直な胸中・覚悟がうかがい知れる書簡と、県民への呼びかけなど冷静に陣頭指揮に当たっていたことが分かる知事の告諭など、当時をリアルに感じられる生の資料を展示しています。

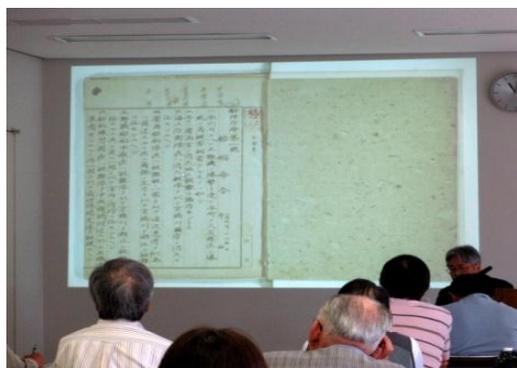
講演会では、当館職員が書簡を読み解き、当時の新聞記事なども見ながら、高野知事の人となりや知事就任の経緯、その後の生涯なども紹介しました。



来館者の声

◆船舶司令部作命綴◆

戦災後の広島市の消火救難のため、船舶司令部が隷下部隊に命令した綴



中国四国地区アーカイブズウィークの一環として、6月7日(土)に講演会を開催!



講演会では更に、防衛研究所戦史研究センターで戦前の陸海軍の公文書約15万点の中から発見した資料「船舶司令部作命綴」の紹介もしました。

被爆後の広島市の救護・警備の内容について記載してあるこの資料は、内容だけではなく、資料原本の状態や形式、書体などから、当時の部隊の様子や関連性、裏事情などを見ることができ、それも生の資料のおもしろさです。

- 原爆投下時の知事を知らなかったのですが、それが知れたこと、そして戦時中の責任者としてのご苦労が大変よく分かりました。
- 当時の生々しい状況を伝える資料であり、心にじかに伝わってきた。
- 今後も収蔵文書の紹介をどんどん活用して勉強していきたいと思います。

現在の展示に加え、7月22日から8月22日まで、広島県庁と県職員の被爆の記録をまとめた『広島県庁原爆被災誌』の関係資料を追加して展示します!
この機会に、資料が語る当時を発見してみたいかがでしょうか。